

2010年度 第1回公開講演会
発想力を鍛える

講師 高橋 誠 氏 (日本教育大学院大学 教授・(株)創造開発研究所 代表)

発想という言葉ですが、発想は創造と同じような意味で使いますね。でも少し違います。これもあとで考えましょう。

これからは何が大切か。皆さんは今、学校で学んでいますね。幼稚園、保育園あるいは小学校の教員希望の方が多いと思うのですが、そこでいざれ皆さんは教えますよね？その時に、小学校だったらまだ学科の授業があつて、ある程度中身が決まっているけれど、実はそれ以外の仕事がいっぱいあります。

保護者の方との対応、子どものけんかをどうしようか…そういうのを大学で学んで現場に入るとは言っても、その時に先生はぶっつけ本番。子どもが「ワイワイ」遊んでいて、そこに変なおじさんが来ることもあるかもしれない。そんな時皆さんはどうするか？

ずっと大学でどうしようか考えたり、学んだり、文献を読んだりしているとは思いますが、そういういざというときにパッパッと「そうだ、こうしよう」と決めないと遅れてしまう場面が、たくさん出てきてしまうわけですね。

品川女子学園は、一時は入学者が24人しかいなくなってしまうのに、定員の3倍の200人にしてしまった校長先生がいます。何をやったかと言うと、キャリア教育です。

18歳の学生に「あなたは30歳になった時に、どんな風な人生を歩んでいきたいですか？」というのを考えさせる。そうすると、学生が「こうしたい」と発言する。すると「それをどうやって実現しますか」と質問する。するとみんな考える。「こうしよう、こうしよう」と話し合いになり、「とてもじゃないけど、フリーターなんてやってられないよね」と考えて、進学率も高くなって、入ってくる学生も増えた学校なんですよ。

実は皆さんが目指す職業は、子どもたちに「将



来、僕は私はこういう風になりたい」ということを、きっちり描かせて、それを皆さんがいろいろアドバイスする仕事なんです。

単に「これを勉強しましょう」ではない。特に保育の世界は、人間をつくる仕事です。中学・高校の先生であれば、まだ教科中心でも良いところがあるけれど、保育園、幼稚園とか小学校の先生はあらゆることに対応できなければいけない。そういう仕事なんです。

そういう仕事だからこそ、いろんなことを思いついたり考えたりしないといけない。今日は時間が限られているので、皆さんには、たった2つのことだけを覚えてもらいます。

1つ目は「発想力を伸ばすにはどうしたら良いか」です。それから2つ目は「発想力を伸ばすために、せめてこのようなことだけは頭においてもらいたい」という、その2つです。

ところで、発想の方法はもう何百もあります。僕は、その研究者なので、山ほど知っていますが、そんなのをたくさん覚える必要はありません。

今日の私の講義の後に、新谷先生を中心に、いろんな演習をやってもらいます。その演習で、発想についての考えをもっと深め、そして具体的に「どうしようか」ということを考えてほしいと思います。

<創造力テスト（言語式）「ビールビン」>

氏名 () (男・女) () 歳

「ビールビン」の本来の用途以外の使いみちを考えて下さい。(3分間)

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____
6. _____
7. _____
8. _____
9. _____
10. _____
11. _____
12. _____
13. _____
14. _____
15. _____
16. _____
17. _____
18. _____
19. _____
20. _____
21. _____
22. _____
23. _____
24. _____
25. _____

CSOKEN RESEARCH INSTITUTE

図 1. 発想テストのシート

では、今から3分間で紙に、あるテーマについて思いついたことをできる限り出してもらいます。

まずは、ビール瓶というのをテーマにしてみました。発想はいろいろありますよね。

発想力テストですが、評価は4つの観点で行ないます。今日は2つだけやってもらいます。

まず一つは、3分間という時間の中で、どれだけ数が出たというのが重要になります。皆さんは平均5個ですから、一般平均の数より少し少なかったですね。日本人の平均は、だいたい6個です。次のテストの時はこれをグッと上げる秘訣を教えます。どうしたらいいのかは、しっかりと教えていきます。

評価法の1つは数です。でも、数が出て、「〇〇を入れる」ばかりな人がいます。これでは発想に限られています。しかし自分が考えたのと隣の人の考えたのを見ると、違いますよね。そこか

ら、いろいろと考えられますよね。

それから、書こうと思ったけど、やめた人もいますね。発想の一番の秘訣は、思いついたことを書く、どんどん出す。たとえばビール瓶で「グサッと殺しちゃう」とか「嫌な男の頭をなぐるとか」何でも良い。考える分には良いのです。重要なのは、思いついたら書くことです。

私の研究所はネーミングの会社でもあります。「ゆうパック」とか「TOSTEM」とかたくさん考えてます。ところで一つの名前をつけるのに、いくつの名前の案を考えると思いませんか？実は最低でも1000は考える。「BIG EGG」の時は、7000考えました。1000 アイディア出しても3つくらいしか使えません。だからたくさん考えないと、商標は取れない。だから、仕事のプロは、せめて300くらいは考えないと駄目。でも皆さんは、そこまでやる必要はありません。さっきの5個を、9個・10個にすることを考えましょう。

今は数を出してもらいました。でも、数さえ出せば良いものではありません。どれだけの広がりがあるかということも重要です。皆さんの実力は、数が5つくらいで広さが3つくらいでしたね。

今日は「発想力を鍛えよう」というタイトルですけれど、発想力というと、「アイディアを出すことだけ」ととらわれてしまうことが多いです。しかし創造性は「アイディアを出してまとめる」ところまでが含まれます。最終的にまとめ上げる。それをどうやったら良いかということ「あるテーマがあって、そのテーマにいろんな情報を結びつける」、つまり今までとは違うものにまとめる、それが創造です。

どういう手が一番良いか、どうやったら良いかを考えるのが発想。どういった手だったら一番良いかを考えてまとめる、うまくやって成功するのが創造なんです。

けども、何かを考えるときに、一つのことしか考えられないとか、それ以外は考えられないとどうしようもない。だから「もっと大事なこと、もっと違う手は、新しい手はないか」を考えることです。

皆が、何か新しいことを考えようとする、もしくはそういうのを考える癖をつけようとするのがとても重要です。

例えば、モンスターペアレントの対策はいろいろアプローチがあります。手段がたくさんあれば、モンスターペアレントにも勝てるかもしれません。まず、モンスターペアレントについて考える時に、「モンスターペアレントとは、こんな人だ」というよりは、皆さんの当面の対象がいたとすれば、「その人」ということに絞り込めば、具体的に対策が考えやすい。

問題をギュッと絞り込むことが重要です。絞り込まないと、解決が非常に難しくなる。問題が絞り込まれていると解決はしやすい。だから問題意識を持つことが大切です。

例えば、僕は発想について常に考えている。新聞で興味のある内容をすぐにコピーする。「自分のやりたいこと、自分の課題、自分のテーマ」が、はっきりしているからです。自分のテーマがしっかりと絞られていると自然に情報は集まる。

つまり、「自分は何をしたいのか、自分は今何を学びたいのか」が絞られている人には、自然と情報が集まる。絞っているから、色々な情報が集まり、色々なアイデアが生まれる。

情報が集まらなければ、アイデアは生まれようがない。だから、問題意識を持つことが欠かせません。

もう一つ気をつけるべきことは、今まで通りに考えがちであること。今まで通りには考えてしまっているが、本当にそれで良いのかを考えないと危ない。疑問を持つということが重要なのです。

新しいことに対して、みんな抵抗する。新しいことはみんなしたくないのです。しかし、皆が持っている知識だって3年間も経ったら古い知識です。3年間何も勉強しない人は、完全に落ちこぼれます。教育の世界もそうです。

新しいことに対して「こんなのフーン」と思うのではなく、「これは何だろう」というようにぜひ興味を持ってほしい。

では皆さんの発想を伸ばすには、どうしたら良

いかをこれから話したいと思います。

「ギルフォード式知能テスト」という有名な知能テストを考えた人がいます。ギルフォード先生は、我々の頭の働きについて様々な研究をしているのですが、思考の立体モデルを考えました。それによると、私たちは様々な情報を基に考える。そして、それを基にして何かをつくり出すと考えた。我々はまず考える前に認知・記憶をします。そして次は思考ですが、そのときは発散的思考・評価・収束的思考の3つを使うとギルフォード先生は言っています。

発散的思考は、先ほどビール瓶で皆さんにやってもらったような思考です。その後に「これは良いな、いやまずいんじゃないか」と考えましたよね。それが評価です。そして最後に、テーマに結びつけてまとめを考えますね。それが収束的思考です。

テーマに結びつけて考えよう、そして「よし、これで行こう」というのが評価・収束的思考です。ギルフォード先生は、発散的思考と評価・収束的思考は性質が違うと言っています。だから思いつく思考の発散的思考と、テーマをまとめるための評価・収束的思考とは分けなければならないのです。

ところが、我々は普通、ここに書いている一本釣り思考のように、一緒にやっけてしまいます。

要は一本釣り型の思考です。つまり、魚を釣ろうとする時に竿をあげて「釣れたかな？」と確かめる。それって、出したアイデアを一個一個良

＜思考は発散と収束を分ける＞

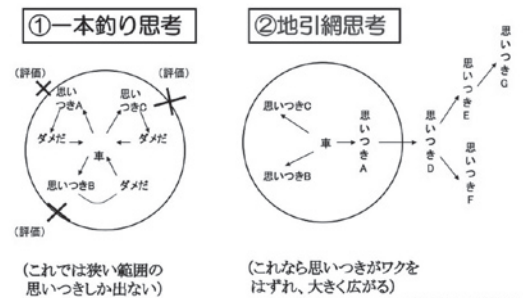


図2. 発散思考

いかどうかをチェックして、また次にそれ以外を
考えるやり方なわけです。それは、「思いついた
のにやめた」ということだから、どうしても発想
が広がらない。それから「思いついたのにやめた」
を繰り返していたら、頭がもっと考えようとしな
くなってしまふ。

だからそれをやめようということで私が考えた
のが地引網思考。つまり、まずは手当たりしだい
に集めて、評価は後でしようとするものです。そ
ういう発想をすべきです。発散的思考と評価・収
束的思考は分けて、出すときは出すに徹する。そ
れが重要です。

さて、思いつきを出そうとする時は、発散思考
の5つのルールが大切です。

1番目は、絶対に忘れないでほしいのですが、

＜発散思考の5ルール＞

- (1) 判断延期 良い悪いの判断はしない
- (2) 自由奔放 どんな発言をしてもかまわない
- (3) 大量発想 まずは大量に、質は考えない
- (4) 広角発想 多角的に思考を大きく広げる
- (5) 結合発展 既存の発言と結びつけて考える

【注】(1)(2)(3)(5)はBS法のルール

©SOKEN RESEARCH INSTITUTE

図3. 発散思考の5ルール

良いとか悪いとかの判断をしないということ。出
す時に、良いとか悪いとかの判断はしないで、判
断は後回しにすること。判断は後ですれば良いの
です。

2番目は、自由奔放。何を書いても構わない。
思いつく時は、全部OK。「これは駄目だ」と思
ってしまうと全部駄目になってしまう。

3番目、大量発想。とりあえず沢山出しましょ
う。手あたり次第にです。

それから、さっきやっていた広い視野を持つこ
とが4番目。ビール瓶も容器ばっかりじゃ駄目で、
いろんな範囲からできるだけたくさん出しましょ
うということ。

もう一つ重要なのが、5番目の結びつける、結
合発展です。「BIG EGG」は、別の人が考え
た「HALF EGG」があったから生まれたもの。
つまり、「HALF EGG」というアイデアが
出なければ「BIG EGG」は出なかった。つ
まり相乗り。他人の意見に乗っかることです。

皆さん個人で考える時にも行き詰ったら、別の
考えと結びつけられないかなど考える。書き出し
て、結びつけてみる。これが重要。特に1番は絶
対大事。次に4・5番。

発想テストを2回やりましたが、最初は5個く
らだったものが8個、広がりの方は3個くら
いから6個になりましたね。このようにこれから
何かを考えるときに、良いか悪いかで判断しない
で、とにかく紙に「こうしよう、こうしよう」と
書くことが大切です。

ポイントは、出す時とまとめる時を分けること。
思いついたことを書き出して、後でまとめる。「出
す時とまとめる時を分ける」、固い言葉で言うと、
「発散と収束で分ける」ということです。

もうひとつ覚えてほしい発想法がマインドマッ
プ。世界で最も思考力が高いと評判の国がフィン
ランドです。フィンランドでは幼稚園や小学校か
らこのマインドマップを教えています。

＜強制連想法—チェックリスト法＞

(オズボーンの考案)

1. <特徴> 発想する際、強制的に用いる、発想のためのチェックリスト
2. 例<オズボーンの9チェックリスト> (ライターの例)

1. 他への転用……ガス発火器
2. 他からの応用……中身見える容器→透明材料
3. 変更したら……金属→プラスチック
4. 拡大したら……ジャンボライター
5. 縮小したら……ミニライター
6. 代用したら……オイル→ガス
7. 再配列は……作業工程
8. 逆転したら……高級品→使い捨て
9. 結合したら……ボールペン付ライター

©SOKEN RESEARCH INSTITUTE

図4. オズボーンのチェックリスト

やり方はテーマを用紙の真中に書く。次にそのテーマに関して思いついたものをその周りに書いていくというもの。とっても単純だが、問題から思考を広げる手法としては良いですね。

そして最後に是非覚えていてほしいのが、チェックリスト法です。これはオズボーンが考えた31のチェックリストをアメリカのカード会社が9つに絞り込んだものです。

これは何かを考えるとときに、頭を切り替えるためのものです。他のものから転用、応用、変化など、考える時のヒントになるものです。

最後になりましたが、今日のポイントをもう一度言います。1つは、最初に考えるときに良いか悪いかを考えないでとにかく出してしまっ、それを後でまとめる発想の仕方。2つ目は、何かを考える時に頭を切り換えることの大切さです。

本日はどうもありがとうございました。

(2010年5月15日 講演収録より)